

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	タイムこどもデイサービスりずむ		
○保護者評価実施期間	2025年2月17日 ~ 2025年3月4日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	2025年2月21日 ~ 2025年3月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月21日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	特定の療育プログラムを強要せず、個々のニーズに応じて安心して過ごせる居場所を提供しています。	学校や家庭での様子や家族本人が一番困っていることなどを把握し、安心して来所できることを最優先としています。	コミュニケーション能力を身につけるように1対1の交流→小集団→多人数→不特定多数の人と交わるように順々にならしていきます。
2	家族の要望に最大限応じながら支援しています。	送迎時刻、支援内容、トイレトレーニング、声掛けの仕方等、個々の求めに可能な限り応じています。	定期的に保護者の方と話を傾聴する時間を確保していきたいと思います。
3	家庭的な雰囲気、幼少期から青年期まであまり変動しない人的環境で過ごす事ができます。	その子の生い立ちや家庭のこと学校のこと、成長の変遷を共有しながら将来を見据えた支援を心がけています。	2ヶ月に一回作業療法士の方の指導を受け、専門的な知識や技能を持って支援していきたいと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の活動が大まかにあるものの流動的で計画が変わる場合もあり、こうせねば！という形にとられるプログラムに固執していません。	事業所の基本姿勢として利用者の意思を尊重する事を第一優先としています。無理強いはしないため流動的になる場合もあります。	居場所作り・仲間作りを優先させながらも、利用者・保護者の要望に応えながら活動の幅を広げます。また、専門的支援を広げていきたいと思っています。
2	懇親会等の保護者同士が交流する機会が年間を通して少なかったと思います。	当施設では一年に一回懇親会を開催しています。これまではそれで良しとしていましたが、保護者の方や職員から交流の機会を増やしてみても？との声があったので今後増やしていきたいと思っています。	実施回数を増やす事や、それ以外での保護者同士が交流を持てる場を提供していきたいと考えている。また、内容についても研修会的意味合いも付加して、皆さんが参加したくなるよう色々工夫していきたいと思っています。
3	学童や児童館等で地域の子との交流を持つ機会が少ないです。	平日は帰りの時間が遅い利用児童も多いため、室内や公園で過ごすことが多く、児童館などに出かける機会がなかなかありませんでした。 公園等で他の子どもたちと遊ぶこともありますが、定期的な場を提供してはいないので4月からは月間プログラムを組み、定期的に機会を設けたいと思っています。	学童等の施設との接点を持つことは難しいと考えています。児童館などの利用回数は増やしていきたいと思っています。

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	タイムこどもデイサービスりずむ		公表日	令和7年3月28日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	天気の日には庭、畑を使ったり、公園に行ったりしている。	低学年の子が多い日などは狭いと感じる時がある。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・利用人数マイナス3～4人の配置で行っているが、送迎の関係で重なるときもあるが本部に協力してもらっている。	少ないと感じるときもある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			入口がバリアフリーではない。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日掃除、消毒をしている。	施設の老朽化
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パーテーション・カーテンを使用し、区別をして環境を作っている。	部屋数が少ない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		年度当初に、事業所および職員個人の目標を出し合っており、年度末には振り返りを行っている。会議・事前ミーティング時にも行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		会議・事前ミーティング時に行っている	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日にミーティング、月2回のかのん会議、月1回の合同会議、月2回のりずむ会議・毎日の事前ミーティング時に皆さんから意見をだしてもらい業務改善につなげている。	会議に参加できなかった職員の意見も把握するようにしたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		法人第三者委員がやっていますが、外部評価もやれるようにしていきたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月の合同会議でミニ研修を、年2～3回は外部講師の全体研修を行っている。また、強行動障害者資格研修を受講できる機会を確保している。	大体の人は参加しているが、他事業所と兼務の人の中には参加できないこともあるので、動画視聴や個別研修も試みている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			※3月末までに公表することになっており、現在各デイにてまとめている最中ですので、できあがり次第HPIに公表します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		個々の子どもの個性を尊重し、興味や関心を伸ばす働きかけができるよう作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ミーティングなどでの聞き取りを行い、検討会議で児発管が作成した案に対して意見を出し合っている。	全員参加が原則だが、参加できなかった人への報連相の仕組みを考えていきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成時、会議内で確認を行っている	支援計画書通りにいかない方への支援会議を行い、検証・達成のための支援方法の共有が必要である。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		現在は、相談支援の様式を用いている。	今後独自のものを作成していきたい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		年度当初にガイドライン・5領域の学習会を行い、新しい様式での個別支援計画書を使ってねらい・支援内容の共有を行った。	「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」については、まだまだ面談等での保護者との調整や学校・医療機関との連携が必要である。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		合同会議、りずむ会議等で、チームで立案している。	※3月末までに公表することになっており、現在各デイにてまとめている最中ですので、できあがり次第HPIに公表します。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		畑や花壇を作り、自然とのふれあいなどを行っている。その様子を見て個々の成長につなげたい。	長期休みに関しては、なるべく普段できないプログラムを計画していきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		専門支援を行うことにより個別支援の活動は広がった。	帰りの時間がバラバラで年齢も差があるため、全体での集団活動は難しいので、グループ活動を増やしていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に事前ミーティングの時間を作り、打ち合わせを行っている	長期休みのときの送迎がばらばらになるため、全員が揃うことが難しい日もある。

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		当日、もしくは翌日の事前ミーティングで振り返りの時間を作り、話し合いを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		個別に記録をつけ、定期的に会議の中で振り返りを行っている。	日々の記録は必ず読みサインするように徹底する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度、モニタリングを会議で行っている。	半年以外でも、必要に応じモニタリングを行ってきたい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		4つの基本活動を組み合わせた支援ができるようにプログラムを考えている。	地域交流の機械の提供がコロナ後少なく経ってしまったので、多面から考えていきたい。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		絵カードや写真を使いながら自己選択できる機会、多数決で行き先を決める機会等を作っている。	支援員が「待つ」姿勢が大切である。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		主に管理者と児童発達支援管理責任者が出席している。	会議の報告を行っているが、全員に浸透しているか？検証が必要である。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校や医療機関とは必要に応じ行っている。医療的対応の方がいるので、看護師がその中核になっている。	学校によっては、踏み込んだ内容までいかないところがある。また、医療機関との連携もまだまだ不十分である。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		基本的に保護者を介して情報を交換しているが、必要があれば学校とも連絡を行うようにしている。	学校数が多いため、情報の収集はもちろん、職員の情報共有の徹底が課題である。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		相談支援事業所を介して行っている	お互い情報共有できるようつながりを深めていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		相談支援事業所を介して行っている	お互い情報共有できるようつながりを深めていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイスや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		相談支援基幹センターとは連携を図って研修を受けたり、助言もいただけるケースがあるが、児童発達支援センターとはない。	今後も相談支援基幹センターや発達障害者センター「まほろば」、児童発達支援センターとのつながりを活かしていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園や児童館を利用した際は関わることもある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会からの連絡があるときは出席するよう努力している。	参加はしているが、毎回参加できているわけではない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳や送迎の際に情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		研修の案内などをお渡しし、情報の提供は行っている。	法人、また事業所として、研修会などは開いていないが、ニーズに応じて行ってきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		見学时、契約時に詳しく説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約時や面談時に意向を確認し、個別支援計画に反映している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画を説明しながら同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		定期的なモニタリングの他、必要があれば機会を作り、情報共有を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		懇親会を開き、スタッフ、また保護者同士での意見交換の機会を設けている。	懇親会を行っているが、それ以外にもなにか交流の機会を作りたいと思っている。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		担当者を設け、できる限り迅速に対応するようにしている。	苦情を言っていたくのはとても有難いので、風通しの良い事業所を目指していきたい。また、丁寧に対応していきたい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		HPや月に一回の通信を発行し、事業所の様子を公開している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		留意している。同意書もいただいている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		発語のない利用者には、絵カードや写真、ジェスチャーを使ったりしている。また、構造化を図っている。	

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		毎年『ぼくらのアート展』を開催し、絵画や工作等を通して交流を図ったり、久喜市等のイベントに参加している。コロナ前は、地域交流イベント「X'mas会」に招待していた。	また、以前のように地域交流イベントを開催し、地域の方を招待したい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルは全て作成し、訓練も行っている。また、面談時に保護者に「避難場所の確認と経路」「災害時訓練計画」の説明はしている。	一部のマニュアルに関しては、周知徹底がされていないので、全マニュアル周知していきたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、研修・訓練も行っている。	通信機能が使えないときの判断を考える必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に問診票や利用者カードに記入してもらい、確認するようにしている。服薬同意書をいただいている。	予防接種の確認は、今後の課題としたい。
	49	食物アレルギーのあることについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		現在アレルギー症状のある利用者はいません。	今後アレルギーのお子さんが出てきたときには、そのようにします。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画書は作成し、研修・訓練を行っている。	カメラ設置等、防犯対策にも今後は力を入れていきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全計画書をマニュアルファイルに綴じ込み、いつでも閲覧できるように入口に置いている。	面談時に、保護者に安全計画・取り組みをお話し、連携を得られるようにする。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		会議・事前ミーティング時に行っている	ちょっとしたことで気づいたことは、全員がヒヤリハットや気づきシートに書くよう徹底していきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		会議・事前ミーティング時に行っている	全体研修への参加率を100%にしたい。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		説明と同意を得てから同意書を作成している。また、定期的に身体拘束の必要があるかどうかを見直しを行っている。	身体拘束は最後の手段なので、そうならない支援方法を考えていきたい。	